

オートパーツ伊地知(伊地知志郎社長、鹿児島市)は、地域の小学校や企業などの工場見学を積極的に受け入れている。地域住民に自動車リサイクルと環境問題に関心と理解を深めてもらうことを目的とした社会貢献活動の一環として取り組んでいる。このほど、鹿児島市立坂元台小学校の5年生83人と担任教諭3人の計86人が見学に訪れたが、同社への一度の見学訪問人数としてはこれまでで一番多い人数となった。同社の取り組みは、自動車リサイクルの大切さを地域に広く伝えている。

(秋田 憲作)

自動車リサイクルって？

小学生向けのグッズを制作

同社は10年ほど前から工場見学を受け入れている。小学生向けには、オリジナルパンフレット「くるくるくるまのりサイクル」を制作、地球規模で直面している環境問題や自動車リサイクルについてイラストを用いて分かりやすく伝える。

坂元台小学校



部品の名前や部品発送の仕方を説明



リサイクル部品が環境に配慮していることを解説



自動車リサイクルや同社の概要をDVD視聴で学ぶ



見学中はニブラの作業を中断して安全に配慮



聞いたことを熱心にメモ取り

オートパーツ伊地知 地元の小学5年生が見学

は、毎年同社を訪問している。今年も5年生が自動車リサイクルを学ぶに工場見学を「オート」を配布。子どもたちは、行った。子どもたちには、同社が組合員として加入するNGP日本自動車リサイクル事業協同組合の廃車買い取りサービス「廃車王」のゆるキャラが印刷されたエコバッグとパンフレットのくるくるくるまのりサイクル、NGPが制作した「NGPリサイクルノート」を配布。子どもたちは、見学して学んだことや気付いたことなどをノートに記入できるように配慮している。

一行は、最初にDVDを視聴して、使用済み自動車から再利用できる部品をリサイクル部品として活用していることやリサイクル部品がCO₂削減に貢献していることの説明を受けた。この中で、リサイクル部品には、ベルマーク付きギランティシールが貼付されて、ベルマークが災害被災地の学校支援に役立てられていること、リターナブル梱包材の利用で段ボール使用量を削減していることも紹介された。

熱心にノートへメモ書き

工場見学は、使用済み車の前処理工程から素材ごとの分別、リサイクル部品生産と廃車ラをプレスするまでを見学した。小学生の安全に最大限配慮し、敷地内の清掃を徹底し、子どもたちの関心の高さがうかがえた。

授業でもリサイクル

現在、多くの小学校で環境や自動車産業の授業の一つとして、自動車リサイクルが取り上げられている。NGPは、2012年4月からベルマーク運動に「協賛会社」として参加し、子どもたちの教育支援を行っている。また、18年3月からは、ベルマーク教育助成財団のホームページに、小学生を対象に工場見学を募集する告知を掲載中だ。同社やNGP事業協組が展開している工場見学の受け入れは、自動車リサイクルの社会的役割について、小学生の段階から理解を深めてもらう良い機会、今後も見学者が増えることを期待したい。